

第34回「展示飛行を陰で支える気象部隊」

航空気象群ホームページのコラム「気象の杜」をご覧くださいありがとうございます。今回は、小牧気象隊からお届けします。

昨年(2024年)の11月、愛知県豊田市において開催されたFIA世界ラリー選手権フォーラムエイト・ラリージャパン2024に合わせてブルーインパルスの展示飛行が行われました。

小牧基地から離陸したブルーインパルスは、豊田スタジアム上空を6機編隊で華麗に飛び、世界ラリー選手権のオープニングを盛り上げました。そのブルーインパルス展示飛行を陰で支えていたのが小牧気象隊です。



豊田スタジアムとラリーカー



ブルーインパルス展示飛行の様子

気象状況は航空機の運航に大きな影響をもたらします。そのため、パイロットは視程(見通し距離)や雲の高さ等の様々な気象状況を考慮した上で、飛行展示ができるかどうかの判断を行います。特に現地の観測値は、とても重要な情報になります。私たちが現地で観測した気象情報は、飛行中も地上統制官から対空無線機によって上空のパイロットに伝えられます。展示飛行の当日は晴天となりましたが、天候が悪く、展示飛行ができるかどうかギリギリの場合もあります。そのような場合には、低い雲が広がっている場所、視程が悪化している方向や気象状況の変化等、細かな観測支援が求められます。

現地観測を行うために、気象部隊では持ち運びできる航空気象観測装置を保有しています。豊田スタジアムにおいて携帯型の航空気象観測装置を設置した際には、来場した方々に多くの質問を頂きましたので、携帯型の航空気象観測装置についても紹介したいと思います。航空気象観測装置の特徴は、コンパクトな器材であるにもかかわらず、現在の天気、気温、湿度、気圧、風向風速、雲の高さ、視程、降水量等の様々な気象要素を観測することが可能であり、雷の頻度や距離等を計測する機能も持ち合わせている非常に高性能な器材です。この携帯型の航空気象観測装置があれば、全国どこへ展開しても観測を行うことができます。

最後に、今後展示飛行等を見に行く機会があれば、ぜひ地上で観測している気象隊員にも会いに来てください！



携帯型の航空気象観測装置及び気象状況を観測する気象観測員の様子